

| | | | |
|-------|----------------|-----|------|
| 授業科目名 | 幼児理解 (2100206) | | |
| 時間割名 | 幼児理解 (32104) | | |
| 時間割担当 | 土谷長子 | | |
| 実施期 | 前期 | 単位数 | 2 選択 |
| 曜日・時限 | 水・2 | | |

授業の目標・概要

子どもと適切なかわりをするためには、子ども一人一人の特性を的確に把握し、理解することが基本となる。幼稚園教育要領や保育所保育指針等をふまえ、具体的な保育実践事例等を通して、環境とのかかわりの中で子どもを理解することを学ぶ。文献や観察記録、映像視聴など様々な演習方法を通して、子ども理解力を高める。

学習の到達目標

子どもを見る視点や子ども理解の方法を知り、子どもの内面の動きや活動への取組み方、その取組みの中で育ちつつあるものを理解する力を養うことを目指す。

授業方法・形式

1. それぞれの学習テーマに対して、資料を活用しながら授業を進めていく。
2. 必要に応じて、取り上げるテーマに関するディスカッションを行う。

授業計画

- 第1回 幼児理解の必要性
幼児教育における子ども理解の必要性について学ぶ。
- 第2回 幼児を取り巻く環境について
幼児教育のための環境づくりについて学ぶ。
- 第3回 幼児理解に向けて
幼児理解に向けての観察の観点（言葉）を学ぶ。
- 第4回 言葉の獲得
幼児の言葉の獲得の様子から理解を図る。
- 第5回 幼児理解に向けて
幼児理解に向けての観察の観点（集団）を学ぶ。
- 第6回 個と集団
幼児の集団づくりの様子から理解を図る。
- 第7回 幼児理解に向けて
幼児理解に向けての観察の観点（子どもの世界）を学ぶ。
- 第8回 子どもの世界
幼児の内面世界から理解を図る。
- 第9回 幼児理解に向けて
幼児理解に向けての観察の観点（保育者の役割）を学ぶ。
- 第10回 保育者の役割について
幼児理解のための保育者（幼稚園教諭）の役割について学ぶ。
- 第11回 保育者の役割について
幼児理解のための保護者の役割について学ぶ。
- 第12回 幼児理解のための方法について
幼児理解のために有効な具体的方法について学ぶ。
- 第13回 記録の目的と方法について
幼児理解のための幼児行動の記録方法について学ぶ。
- 第14回 就学前教育から小学校教育につなげる
幼児理解を小学校教育につなげていくために必要な要件を学ぶ。
- 第15回 本講義のまとめを行う。

成績評価の基準

毎回の授業中に行う小レポートを中心に評価し、授業に対する理解度をチェックしていく（30%）。示した課題への取り組みについて評価する（30%）。学期末テストで総合的な理解を確認する。（40%）

授業時間外の課題

- ・受講中に適宜ノートを取り、ノートそのものが参考資料となるようまとめておく。
- ・授業中に配布した資料については、ファイルし、整理しておく。
- ・日ごろから幼児へ関心を持ち、やり取りなどを記録しておく。

メッセージ

幼い子どもたちはその時々を生きている存在です。そうした子どもたちに対する教師としてふさわしい態度で、授業にも取り組んでください。

教材・教科書

指導と教科に生かす記録（文部科学省）フレーベル館

参考書

幼稚園教育要領解説